

「若狭の自然の中で 青空教室<不登校児童生徒支援事業>～東海市との連携

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
—	—	17	13 (愛知県東海市)

2. 事業内容 (概要)

◆ねらい

- ・課題を抱える児童・生徒が、若狭湾の雄大な自然の中で心身をリフレッシュするとともに、参加者同士や参加者とボランティアの交流を図り、チャレンジしようとする意欲を高める。
- ・課題を抱える児童・生徒が自然体験活動を通して、より良い効果を得られるようなプログラム開発を行い、近隣青少年教育施設・教育委員会・学校等にプログラムの提供及び発信をしていく。

◆期日・期間

2016年9月17日(土)～2015年9月20日(月) 2泊3日

◆連携機関 東海市教育委員会 (適応指導教室：ほっと東海「横須賀教室」「上野教室」)

◆参加者分析

- ・東海市適応指導教室(ほっと東海)に参加している児童・生徒および適応指導教室(ほっと東海)スタッフの計35名が参加。
- ・児童・生徒は所属教室ごとのまとまりが2教室あるが、東海市内の小中学校で保健室登校をしている児童・生徒の参加を含め、全体が顔を合わせるのは今回が初めてであり、実質的に別個の3グループからなる。

◆企画のポイント

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
22															
九月十七日(土)			東海市 出発	自然の家 到着	はじまりのつどい	昼食		・施設見学等 ・自己紹介等 アイスブレーキング	・海をながめる (海とふれあう)	・磯遊び ・浜遊び	・若狭塗り箸 (つどい)大浜	自由時間 夕食	入浴 棚田キャンドル見学 ナイトタイム①		就寝
九月十八日(日)	朝のつどい	朝食 清掃	活動①(選択) (海に親しむ) ・シーカヤック	・磯観察(大浜) ・スノーケリング ・磯釣り(多目的) ・ボート	・浜辺を歩く	昼食	活動②(選択) (海とともに) ・シーカヤック	・磯観察(大浜) ・スノーケリング ・磯釣り(多目的) ・ボート	・浜辺を歩く		自由時間 夕食	入浴 (島の越も) (プレイH) ・手紙を書こう! ・ボラとの語らい② ・夕日を眺める②	ナイトタイム②		就寝
九月十九日(月)	朝のつどい	朝食 清掃	活動③(全体) (海を感じる) ・カッター			昼食	おわりのつどい			東海市 着					

- ・ 予めパッケージされたプログラムを消化するのではなく、参加者個人が興味・関心を元に「自分で決めた」内容に取り組むことで自己決定能力、責任能力を育むことを目的に、選択プログラムを中心に日程構成を行った。
- ・ 参加者の普段の生活で海との関わりが薄いことより、臨海型施設の特徴を最大限に活かし海のプログラムを中心とした活動を実施した。

◆運営のポイント

- ・ 日常生活で基本的な生活習慣を確固に確立していない子どもが見られることから、集団生活における基本姿勢は重視しつつも、ゆとりのある内容展開を持って参加者各人の負担が過大にならないように配慮した。
- ・ 施設到着後より海を感じることでできるスロー系のプログラムからスタートさせ、段階をおってアクティブなプログラムへと移行し、児童・生徒の体力的・心理的なペース配分を考慮したプログラム構成とした。
- ・ ボランティアと参加者が「1対1」の関わりをもつことが出来るように配置を考え、個々の状況や到達度を共有出来るように打合せを密にした。
- ・ 若狭塗り箸をアイスブレイク後取り入れることで、ゆっくりスタートしたり、ボランティアと話をするタイミングにしたりして、始まりを大切にした。

◆安全管理のポイント

- ・ ボランティアに対し、事前に講習を実施し、適切に人間関係を築けるように配置し、安心して活動できる配慮を行った。
- ・ 水辺活動については余裕を持ったスタッフ配置と入念な事前指導を行った。
- ・ 時間にゆとりをもってプログラムを立て、参加者達の準備をしっかりと取ることにより、安心して活動に参加できるように配慮した。

3. アンケート結果

(1) アンケート

<参加者>

項目	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	54%	38%	8%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	46%	38%	8%	8%
この事業の運営はどうでしたか	39%	46%	15%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

(2) 参加者の声

- ・ 最終日のカッターにまた挑戦できたらいいなと思いました。
- ・ 塗り箸はもう一度やりたいです。
- ・ スタンドアップパドルサーフィンが楽しかった。
- ・ 睡眠時間が短かった。

4. 成果と課題

(1) ねらいについて

- ・ 今年度は、全員で塗り箸をすること、海活動は4つに絞ってできるだけ海に出ることなどをねらいとした。活動に対して積極性を示す子やスタッフに促されて行う子などさまざまであった。今年度は女子が多く、静かな雰囲気であったが、3日目には笑顔を見せる子も多く、一定の成果があったと考える。

(2) ボランティアについて

- ・ 上記のように女子が多くなることを想定して、女子のボランティアを多く配置した。結果的に児童生徒を良くサポートしてくれて、東海市側からも賛辞する声が聞かれた。

(3) 本事業の今後の方向性

- ・ 東海市が用意したボランティアが5名来所した。前年度より継続して話し合いを持っている「いつかは東海市が用意したボラがペアで寄り添いながら、研修支援団体として受け入れる」という趣旨に東海市側が答えてくれた形になった。次年度以降も東海市側のボランティアの数との兼ね合いを見ながら取り組みを進めていきたい。

5. 活動の様子

